

旅行取扱状況の概観（平成17年5月分）

海外旅行の取り扱いをみると、団体旅行は学生団体の取り扱いが好調であったが、取り扱い構成比の高い一般団体の取り扱いが伸びなかったため、前年実績に届かず4ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。主催旅行では、ホリデイが前年実績を大きく上回り4ヶ月連続での前年実績プラスと好調に推移したが、その他主催旅行の取扱いは低調であった。個人旅行は堅調に推移したものの前年実績には届かず、5ヶ月ぶりに前年実績割れとなった。この結果、海外旅行合計は、前年比99.4%と前年実績を僅かに下回り4ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

国内旅行の取扱額をみると、団体旅行は一般団体が堅調で前月に続いての前年比プラスとなったが、学生団体が低調のため、前年実績には僅かに届かなかった。主催旅行はメイトの低調により大きく前年実績を下回り、個人旅行も愛知万博入場券、航空券の取扱いは増加したが、JR券、宿泊券の低調により前年実績を下回った。このため、国内旅行合計は、前年比94.6%と前月に引き続いての前年実績割れとなった。

外人旅行は、FITの取り扱いが好調により前年比146.8%と前年実績を大きく上回り、6ヶ月連続での前年比プラスと好調を維持している。

5月の総取扱額は、国内主催旅行の取り扱い低調の影響が大きく、前年比96.3%と5ヶ月ぶりに前年実績を下回る結果に終わった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体では、依然イベント関係の取り扱いが好調であったが、その他団体は大幅に前年を下回り不振であった。学生団体は、修学旅行および海外研修等の取り扱いが増加し、大きく前年実績を上回った。

方面別の取り扱いでは、韓国、台湾、香港、ミクロネシアといった近場が好調であった。一方、中国、タイは前年から半減の状況。

(2) 主催旅行

ホリデイは依然として取り扱いが好調で、前年比112.3%と4ヶ月連続の2桁増と好調に推移した。

方面別取り扱いでは、韓国、台湾、ヨーロッパ、ミクロネシア、ハワイが好調であった。中国、タイは依然低調で、前年の50%程度の状況。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体はイベント・コンベンション等の取り扱いが好調により、前月に続いて前年実績を上回った。学生団体は修学旅行、校外学習の取り扱いに伸びが見られず、前月に続いての前年比マイナス。

(2) 主催旅行

メイトは前年比89.8%と大幅に前年実績を下回ったが、これは取扱額の前年実績が計上基準変更による異常値になっているため、販売の実勢としては95%程度の状況である。

方面別では、沖縄の好調が目立った程度。

(以上)